

2. 初動対応、情報伝達

- ・初動対応
- ・情報伝達
- ・防災啓発

小野中村被災直後



多量の水が不安定土塊に供給されている

崩壊規模
 $W=26\text{m}$
 $L=95\text{m}$
 $D=5\text{m}$
 $V=8,750\text{m}^3$
 (内 $2,000\text{m}^3$ が斜面に不安定土塊として残存)

被害状況	死者1人 全壊2戸
緊急対応	伸縮計 3基 7/25設置済
	伸縮計 1基 8/1設置予定
応急対応	土砂除去 7/24開始 8/9完了
被災経緯	7/19 10:12頃 土石崩落発生
	7/21 8:00頃 自主避難 避難者4人
	20:00頃 避難者4人 帰宅

堆積場の状況



堆積場では行方不明の方の搜索

佐藤所長:警戒避難1

平成18年7月に辰野町小野中村で発生した地すべり災害に対する緊急対策工事の事例。

- ・当時の上伊那地方は交通網が各地で寸断され、伊那建設事務所も孤立した状態であったため、初動対応が災害発生から26時間後が経過していた。
- ・発生した地すべり地では、約 $2,000\text{m}^3$ の不安定土塊が地下水の供給により断続的に移動しており、二次災害発生が懸念された。



佐藤所長: 警戒避難2

【応急対策工時の実施】

- ・滑落崖直下の湧水を地すべり地外へ排水する。
- ・崩壊地外周に簡易排水溝を整備。
- ・滑落崖保護のためのシート敷設。
- ・二次災害防止のための簡易土砂移動センサーの設置と監視。



佐藤所長:警戒避難4

【土砂災害の啓蒙】

- 一般の方々へ、河川災害と土砂災害の違いを認識してもらえよう、啓蒙活動が必要である。
- 河川災害は河川水位の上昇等の事前現象が観察できるが、土砂災害は突然発生するケースが多く、予測が難しい。
- 土砂災害情報や土砂災害危険箇所パトロール等で危険が指摘された場合は、地区の警戒避難に反映する必要がある。

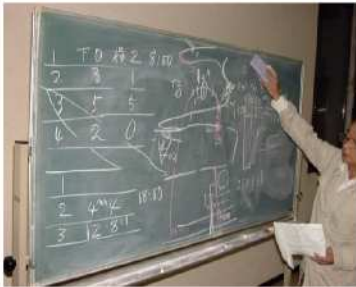
下石川地すべり(警戒避難・情報伝達)



佐藤所長:警戒避難5

・平成11年9月28日に発生した「下石川地すべり」で、被害想定区域に77世帯、267名が居住している地域。

住民への情報伝達 (1)現地連絡会議



第一回連絡会議(H11.9.28)



連絡会議(川柳公民館)

佐藤所長:警戒避難6

【住民への情報伝達1】

- ・当地区は以前から関係機関や地域の方々の要望を踏まえ、積極的に情報を開示し、地元住民と協同で警戒・避難、地すべり対策事業を実施してきた。
- ・今回の災害発生に伴い、関係機関、地元役員への説明会を開催し、状況説明、警戒・避難体制、緊急連絡体制を整備した。
- ・本会議を「下石川地すべり現地連絡会議」として、長野市防災課主催により対策工事完了まで開催した。

住民への情報伝達 (2)現地広報板



下石川地すべり情報掲示板1



下石川地すべり情報掲示板2



下石川地すべり情報掲示板
利用状況

佐藤所長:警戒避難7

【住民への情報伝達2】

- ・住民への情報伝達は、情報掲示板の設置と情報開示、チラシの配布、消防や警察、長野市による戸別訪問を実施し、住民の不安解消を目指した。
- ・関係機関の情報共有として、遠隔システムによる計器観測体制を構築した。
- ・発生当初からの対応により、行政や関係機関、地域住民の間で意思の疎通を図り、地すべり対策事業を実施でき、地域の民生安定を実現できたことは意義深いと考えている。